

百人一首を覚えよう！ その8 (71～80)

71. 夕されば 門田の稲葉 おとづれて 蘆のまろやに 秋風ぞ吹く
(ゆふされば かどたのいなば おとづれて あしのまろやに あきかぜぞふく)

(大納言経信 (だいなごんつねのぶ) (1016～1097) 「金葉集」)

72. 音に聞く 高師の浜の あだ波は かけじや袖の ぬれもこそすれ
(おとにきく たかしのはまの あだなみは かけじやそでの ぬれもこそすれ)

(祐子内親王家紀伊 (ゆうしないしんのうけのきい) 女流歌人 「金葉集」)

73. 高砂の 尾上の桜 咲きにけり 外山の霞 立たずもあらなむ
(たかさごの をのへのさくら さきにけり とやまのかすみ たたずもあらなむ)

(権中納言匡房 (ごんちゅうなごんまさふさ) (1041～1111) 「後拾遺集」)

74. 憂かりける 人を初瀬の 山おろしよ はげしかれとは 祈らぬものを
(うかりける ひとをはつせの やまおろしよ はげしかれとは いのらぬものを)

(源俊頼朝臣 (みなもとのとしよりあそん) (1055～1129) 「千載集」)

75. 契りおきし させもが露を 命にて あはれ今年の 秋もいぬめり
(ちぎりおきし させもがつゆを いのちにて あはれことしの あきもいぬめり)

(藤原基俊 (ふじわらのもととし) (1060～1142) 「千載集」)

76. わたの原 漕ぎ出でて見れば ひさかたの 雲居にまがふ 沖つ白波
(わたのはら こぎいでてみれば ひさかたの くもみにまがふ おきつしらなみ)

(法性寺入道前関白太政大臣 (ほっしょうじのにゅうどうさきのかんぱく
だじょうだいじん) (1097～1164) 「詞花集」)

77. 瀬を早み 岩にせかるる 滝川の われても末に 逢はむとぞ思ふ
(せをはやみ いわにせかるる たきがはの われてもすゑに あはむとぞおもふ)

(崇徳院 (すとくいん) (1119～1164) 第75代天皇 「詞花集」)

78. 淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守
(あはぢしま かよふちどりの なくこえに いくよねざめぬ すまのせきもり)

(源兼昌 (みなもとのかねまさ) 謎の歌人) 「金葉集」)

79. 秋風に たなびく雲の 絶え間より もれ出づる月の 影のさやけさ
(あきかぜに たなびくくもの たえまより もれいづるつきの かげのさやけさ)

(左京大夫顕輔 (さきょうのだいぶあきすけ) (1090～1155) 「新古今集」)

80. 長からむ 心も知らず 黒髪 of 乱れて今朝は 物をこそ思へ
(ながからむ こころもしらず くろかみの みだれてけさは ものをこそおもへ)

(待賢門院堀河 (たいけんもんいんのほりかわ) 女流歌人) 「千載集」)